

地域の資源をつなげよう！ リソースマッチング2016 報告レポート

日時 2016年3月12日(土) プレゼン大会 13:00~17:30/交流会 17:45~18:45
場所 名古屋都市センター(名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル内) ホール、特別会議室
参加者 70名
主催 「なごや環境大学」実行委員会
共催 中日新聞社、名古屋市、公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

プレゼン大会 第1部 テーマ：防災「南海トラフ巨大地震の被害に備える、市民セクターネットワーク」

中部地区の大規模災害に対応した互助ネットワークの動向を紹介し、NPO 自らの防災対策、お互いの支援活動の在るべき姿を話し合いました。



「南海トラフ巨大地震の被害想定」
秀島 栄三 氏(名古屋工業大学高度防災工学センター教授)

問題提起「市民セクターによる対応協議会づくりを」
栗田 暢之 氏(レスキューストックヤード代表理事)



各ジャンルのNPOによるディスカッション
来場したNPOや市民とプレゼンターとの質疑応答や、活発な意見交換などが行われました。

NPOによるディスカッション

プレゼン大会 第2部 テーマ：情報「市民による、市民のための情報ひろばづくり」

なごやで日ごろ調査活動を行う方々の事例を伺い、地域に根差した環境に関する様々な調査、情報を一か所で知ることのできる「情報ひろばづくり」について考えました。



「Glocal 市民のためのフェアトレード産品取扱店MAPづくり」
前田 康雄 氏(フェアトレード名古屋ネットワーク ボランティア)

「AQMAPを使って、水質調査をより楽しく実あるのものに」
伊藤 匠 氏(一般社団法人 ClearWaterProject コーディネーター)



「10年ぶりの市民による一斉調査～名古屋気温測定調査2015～」
與語 基宏 氏(名古屋気温測定調査2015実行委員/日本気象予報士会)

與語氏

プレゼン大会 第3部 テーマ：行政「やる気と思いをつなぎます！」

名古屋市や関係団体で環境活動、まちづくりに携わる担当者が、日ごろの取り組みや、ひろく市民が参加できる仕組みなどについて語りました。



「花や緑のまちをつくる仲間たち」
八木 仁志 氏(名古屋市緑政土木局緑地利活用室長)

「みんなが主役！ナゴヤのまちづくり」
稲野 由美子 氏(名古屋都市センター調査課主査(まちづくり支援))



「なごやをつなぐ『なごや環境大学』」
森 匡司(名古屋市環境局環境活動推進課主査(なごや環境大学))

森氏

第1部～3部のテーマごと、参加者から「提供できるリソース」と「求めていること」を抽出し、表を作成しました。

第 1 部 [防 災]					
	人	モノ	資金	情報	ノウハウ
提供できる	・地域防災活動支援できる人材育成。 ・人を支えることができる人材育成を。	・各戸での備蓄のススメ ・水 2L×3～4 本 ・食料（他人の分も） ・テント ・保健委員会や町内会で周知。 ・災害ボランティアコーディネーター	・レスキューストックヤードへ寄付		・心肺蘇生（講習や器具）
求めている	・住宅地のなかでの町づくり→防災 ・日常的な声かけ、見回り活動	・水、食べ物 企業からの支援、寄付。 ・非常時は物資は手に入りづらい。		・南海トラフ地震はいつくるの？ ・対策は風化する？ ・どこに生活弱者がおられるか情報がない ・自分が避難したことの情報発信 ・逃げた場合に目印を ・個人情報について核となる人たちがもっと勉強しないと。（名簿作り） ・災害対策名簿⇔個人情報	・企業での防災対策から一歩レベルアップできないか。 ・行政範囲を超えた知識 ・避難所に行くか、行かないか？（ペットがいるので。避難所にペットは入れるか？） ・避難所における障がい者の方たち（認知症、自閉症）対応 ・誰がリーダーシップをとるか？

●コーディネーターからのふりかえり / 萩原 喜之（なごや環境大学チーム員）

近々起こるであろうと言われている南海トラフ巨大地震の被害想定はあまりにも大きいものです。行政、企業、防災関係者のみでは対応はできません。日常では様々なジャンルで専門性を持った活動が、震災などの非常時には大きな力になります。防災以外のNPOが防災と関わ、平時と非常時を連動させる貴重なスタートができました。



第 2 部 [情 報]					
	人	モノ	資金	情報	ノウハウ
提供できる		<防災に必要なモノ> ・独居の高齢者がどこにいるかわかるようなもの ・ハザードマップ。周辺との整合性“区割りにしないで！” ・つながる、連携。 ・雨水の浄化のしくみ、町内会で作って！		・HP でみんなの活動発信！（なごや環境大学） ・小幡みまわり活動MAP ・おばコム←検索	・培ったノウハウ。継承したい。
求めている	・若い子カラ ・若い人 自然に帰れ！ ・里山を楽しむ仲間 ・今日の現状において、ITを利用して施策を進めていくことが困難であるとわかった。若者に対する期待が高いことを感じた。 ・高齢者が多い中、情報を若い人たちに伝えていくことが大切だとわかった。	・バイオトイレの普及 →東谷山の樹木の肥料に使っている（今） →公共の施設になればサイクルが変わる →図書館、コミセン、生涯学習センターとか。 【現状】1日 20～30 人。水が足りない。	・若者が食べていけるよう環境ビジネスへ		・環境分野は IT に弱い！ IT に強くなりたい。 ・環境分野のボランティア文化を変えたい！アプリ等きっかけ。

●コーディネーターからのふりかえり / 尹 奎英 (なごや環境大学実行委員)

市民が必要とするなごやの情報を効率的に伝達する仕組みづくりの一環として「市民による、市民のための情報ひろば」を立ち上げるに至りました。

この情報ひろばをひろく周知させて活性化させることを課題として掲げ、なごやマップ（市民からの有意義ななごやの情報をマップ上にプロットしたもの）を提供している NPO の協力を募りました。

今回のリソースマッチング事業を通して、3つの団体から協力が得られて、情報ひろばになごやマップを掲載することに至りました。本事業の大きな成果です。加えて、小幡見守り活動 Map も協力いただけることで、本事業を通してより多くの NPO 団体とつながる機会を得ました。



第 3 部 [行 政]					
	人	モノ	資金	情報	ノウハウ
提供できる	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア ・若者の力で一歩踏み出す。 ・若者への呼びかけ ・人脈たくさんあります。 ・ESD 講座の人材派遣 		<ul style="list-style-type: none"> ・多少の資金があるので助成金をもらわずに活動。 ・助成金獲得支援（書類）しますよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報なごや 	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市での野生動物の保全団体維持ノウハウあり。 ・団体維持サポートします。
求める	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人に呼びかけるので、行政の人ではなくても NPO でも、防災に関して話してもらいたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人を雇用し続ける資金。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに参加したい。 ・他都市とのネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいるところに責任を持つ。住みやすく安全、美しい町。 ・行政の仕事にはカベがたくさんある！

●コーディネーターからのふりかえり / 新海 洋子 (なごや環境大学実行委員)

名古屋市の緑政土木局と都市センターの施策を紹介いただき、市民とのマッチングの可能性を探りました。

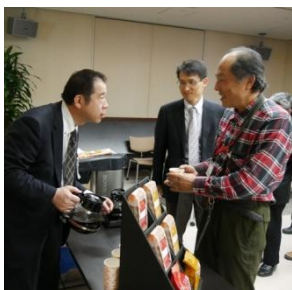
行政側は「建設的な意見交換、アイデアだしができてよかった」、市民側は「行政と対話をするのでお互いのニーズを知ることができてよかった」などのコメントがありました。

今回は初めてであり、それぞれ行政施策の紹介の時間を多くとったため、お互いのニーズを共有しマッチングを成立させることは難しかったですが、「お互いを知る」という段階はクリアできたと捉えています。今後いかにていねいに関係性を育み、行政施策に市民の提案や資源が活用され、具体的参加と役割も位置づけられ、相乗効果で地域への影響力を高めていくことがなごや環境大学の重要な機能であることを確信しました。



交流会

フェアトレードコーヒーを味わいながら、名刺交換や歓談を楽しみ、心地よい時間を過ごしました♪



*なごや環境大学では、今後もリソースマッチングのよりよい仕組みを検討し、情報を発信していきます。最新情報はウェブサイトやフェイスブックなどでお知らせしますので、ぜひチェックしてください！

URL : <http://www.n-kd.jp/>

Facebook : <https://www.facebook.com/nagoya.kankyo.d>

「なごや環境大学」実行委員会 事務局
 〒460-0008 名古屋市中区栄 1-23-13 伏見ライフプラザ 13F 名古屋市環境学習センターエコパルなごや内
 TEL/FAX : 052-223-1223 E-mail : jimu@n-kd.jp